



Tackle Guide

竿はメバル竿や軟調のゲームロッドが適している。硬めの竿を使う場合は仕掛けの上にクッションゴムをセットするのも手。仕掛けは2本バリと3本バリがあるが、それぞれの好みで選択すればいい。



▲イシモチの引きはつい夢中になる面白さがある

くる。
「キャストできる人はやってみて」と船長も広く探るようマイクで告げる。
このような場合、キス竿に



▲東京湾のイシモチはまだまだ好釣果を期待できる



▲目下の釣り場は横浜沖の水深25メートル前後

東京湾のライトアジやシロギス釣りでゲストとして釣れるイシモチ。塩焼きやカルパッチョ、空揚げなどが定番料理だが鮮度が落ちやすい魚だ。しかし、そこは釣り人の特権。釣れたらすぐに血抜きをして海水水の入ったクーラーに入れて鮮度を保ち、ぜひとも刺身で召し上がっていただ

▼時には一荷もあった



残り30分で好転

そんな中、左舷の間で健闘していたのは井上さんご夫婦の旦那さんのほう。

スピニングリールをセットした1本バリ仕掛けで遠投したらサビいてくると効果的なのだ、残念ながら皆さんそのような道具の用意はしていないようだ。
それでも潮上になるトモ寄りの人は比較的ヒット率が高く、徐々にイシモチの数をのばしていく。

▼イシモチは簡単だけど気難しい面もある



「ようやくバターンがつかめました。これから追撃よ」と夫婦バートルに熱が入ったようだ。その後も小アジ交じりでポツリポツリの状態は続いたが、救いは釣れるイシモチが25センチ以上の良型が多い

たは5尾も釣っているのに私はまったく釣れないのはなぜよ」と奥さんは不満顔。
二人の釣り方を見ていると奥さんのほうがしきりに竿を動かしているようで、活性が高いときなら正解なのだろうが、渋いときはそれがかえってイシモチに違和感を与えてしまっているのかもしれない。しかし私が撮影のため右舷に移動してから戻ってくると奥さんの佳代子さんのタルの中にはイシモチが2尾泳いでおり、そして今まさに3尾目となるイシモチとヤリトリ中だった。

のラブコールが増えて数をばし始めた。だが1時間もすると完全に潮が止まってしまい、我慢の間が1時間ほど続く。今日はこれまでかと思つた沖揚がり30分前のこと、上げ潮

一定の速度で巻き上げて抜き上げたのは22センチのイシモチ。この要領でポンポンとイシモチを連釣していると隣の席で苦戦していた堀君が、「釣り方を教えてよ」と言うので「今の時間帯は船の揺れで穂先が動くぐらいの誘い方がベストみたいだよ」とアドバイスする。

ことだろう。
残り時間も2時間半となつたところで私も竿を出す。これまでの状況から判断してあまり積極的に攻めるのではなく、ユラユラとしたソフトな誘いをしていくとゴゴゴツと派手な魚信が穂先を揺さぶる。
が、ここは辛抱のしどころ。ガクガクとたたくような魚信に変わったところで竿を立てて合わせを入れるとさらに突っ込んで激しく抵抗してくる。この手応えがたまらない。

●船宿information

東京湾奥金沢八景
黒川丸
☎045-781-8720
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=ショートイシモチ乗合一人8000円(ネット割引あり)。付けエサ、氷付き
▶備考=出船7時半、沖揚がり13時。別船はライトアジ、タチウオへ。無料駐車場あり



黒川 欣也船長

取材日は潮具合が思わしくなかったが、イシモチの魚影は濃いのでまだまだ期待できるだろう。
が効き始めると一気に釣果が好転した。しかも潮下だったミヨシの私の席が潮上の特等席になったものだから、入れ食い状態になって大忙し。平均サイズもアップして35センチのイシモチが掛かったときは穂先が海面に突き刺さるほど突っ込まれてハラハラドキドキだった。まだまだ釣れそうな雰囲気の中、残念ながら沖揚がりの時間を迎える。
釣果は18、35センチのイシモチを一人7、24尾、私はイシモチ20尾にアジ5尾を釣ることができた。

東京湾の手軽な小物釣り
横浜沖のイシモチ好調!

●東京湾奥金沢八景発→横浜沖

本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshitaka Suzuki

エサ付けはアオイソメの1匹掛け。腹をギユッと押さえるとアオイソメがバクッと口を開けるので、素早く口の中にハリを掛けて縫い刺しにすればいい。
イシモチは海底付近を回遊してエサの虫類を捕食しているの、釣り方は底トントンキープして時折竿をリフトしたらゆっくりと誘い落とすのが基本動作。
とにかくアオイソメをナチュラルにユラユラと動かすことによりイシモチにエサの存在をアピールさせることが肝心だ。

エサを完全に飲み込んでギユンギユンと引くまで待つてからゆっくりと竿を立て、合わせを入れるようにしたい。開始早々に右舷の間で佐藤さんが竿をしならせてリリングを開始、30センチの良型のイシモチを釣り上げる。続けて左舷ミヨシ2番の釣友、堀君が25センチのイシモチを抜き上げた。

この調子でバンバンとイシモチが釣れるかと思つたのだが、期待に反して船内ではポツリポツリといった状態が続き、とても50尾60尾と釣れるような展開ではない。
潮があまり流れていないのと、堀君がマアナゴを釣つたように底潮が濁っているのもイシモチの活性が低い原因かと思われる。

活性が低いと食い込みも悪く「あっぱれた!」と言う声があちらこちらから聞こえて



▲しっかり食い込んでから合わせよう

知得! Tips and Tricks

寒い冬には
カップ麺

寒い船上でいただく熱あつたのカップ麺は格別だ。黒川丸では出船前にリクエストするとポットを用意してくれるので頼んでおくといいだろう。

▶寒い船上では暖かいものがほしくなる